

# O.S.P



VOL.18  
June

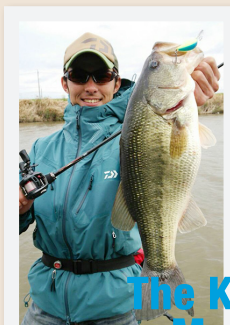
{ OSPREY / SPIRITUAL / PERFORMER }

無料

ご自由にお取りください

Keep it  
on the down low!!

—並木敏成が語る あのルアーの真実—  
～他に類を見ないO.S.Pルアーに搭載された  
構造の真実・ソフトベイト編～



The Kotaro's  
Maxims

数釣りから一発ビッグまで狙える  
タイニーブリッツシリーズの魅力

O.S.P  
動画

…▽…  
随時  
更新!!

O.S.Pプロスタッフが  
ホームレイクを徹底紙上ガイド

The Field Guide

～安達真秀@北浦～



二人の新顔プロスタッフが明かす必須ルアー

二羽の鶉の眼

6月の山上湖で外せないアイテムとは…?  
高原 清 / 林 晃大

並木敏成&O.S.Pの  
最新情報はこちら。

並木敏成 ↓



O.S.P ↓



# Journal

# THE KOTARO'S MAXIMS



今回は食わせに特化したクランクベイト、タイニーブリッツシリーズについて解説する。タイニーだからと侮るなかれ。数釣りはもちろんビッグバスにも効く。オリジナルモデルからMR、DRと3タイプのラインナップを揃えるこのシリーズは状況に応じて的確に使い分けすることで、アングラーにとって大きな武器になる存在だ。逆風下のシングルハンドでも難なく飛距離を稼ぐことができるためおかつぱりでも強い味方となってくれる。広範囲のサーチから狭いピンスポット攻めまでをこなすタイニーブリッツシリーズ。光太郎のアドバイスを参考に、ぜひ使いこなしていただきたい。

数釣りから一発ビッグまで狙えるタイニーブリッツシリーズの魅力

とにかく食わせに特化したムービングベイトフィネスな攻めにこだわればもっと釣れる!

クランクベイトと聞くと、豪快に投げてぐりぐり巻くというイメージが強いだろう。もちろんそれは間違いではないのだが、今回ご紹介するタイニーブリッツシリーズはその逆。ロングキャストで広範囲を探るといった一般的なクランクベイトのよ

うに使うこともあるが、ときには狭い範囲をタイトに通したり、ピンスポットを何度もトレースしてバイトを誘発するなど、フィネスな攻めを得意としているのが最大の特徴。サイズが小さく、オリジナルとMRにいたってはノンラトルということも相まって、より食わせに特化している点は光太郎も太鼓判を押すところ。ハイプレッシャー化が進む中で、かなり重宝している存在だ。「例えばインレットなどは誰もが攻めるピンスポット。そこで普通のクランクを通すと、食わずしてバスがいても2〜3投でスレてしまい、その場から離れてしまうことも。そんなところでぜひ、タイニーブリッツシリーズを投入してほしいですね。同じコースでも通し方やスピードを変えることでスレさせず、バイトに持ち込めます!」

多彩な引き方でスレさせることなく食わせる!

「バスが確実にいるであろうピンスポットでは、まずは無防備にメディアムリトリブ。これでコースをずらして何度か通し、それで食わなければトゥイッチ。このとき、いいヒラ打ちをするんですよ。あとは高速リトリブですね。速く巻いても動きを崩さないで、これでリアクションバイトを狙います。同じスポットを何度も通しても、バスをスレさせない、嫌がらせないのはタイニーブリッツならではの。小粒ボディ&ノンラトルの賜物だと言えるでしょう」



「速さは強さでもある」と光太郎。いきなり高速巻きを試すと、いくらかタイニーブリッツとはいえず、バスに警戒心を抱かせてしまうことも。高速巻きを試す場合は最後の賭けと心得よう。

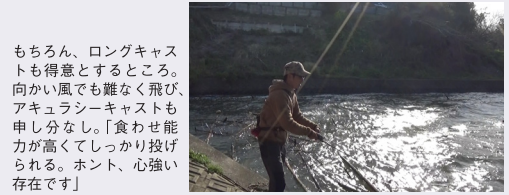


「深きコムの隙間では、カエルをイミテして水面で、パジリョクと誘うのもあり。パジリョクのようなラトルが入っているモノであれば、アピール力をより高めることが可能」

「タイニーブリッツは固定重心ゆえ、泳ぎ出しが非常にいい。なので、ワームを入れるような狭いスポットに打ち込んでも、助走距離の必要なく動き出してくれます。1mもないようなスポットでも、巻きはじめで動いてくれるのです。そういうところにいるバスはクランクを見慣れていないので、リトリブ直後にガバッと食ってくることも。そういうスポットにも積極的に入れていってほしいですね」



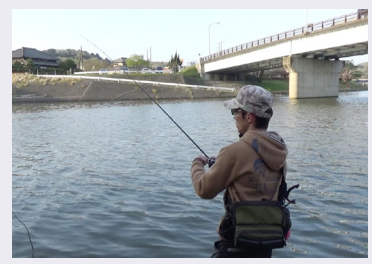
わずかに1mほどのスポットでも、巻きはじめからきっちり動いてくれるタイニーブリッツなら、食わせることができる。こういったフィネスにこだわれば、釣果は格段にアップする



もちろん、ロングキャストも得意とするところ。向かい風でも難なく飛び、アキュラシーキャストも申し分なし。「食わせ能力が高くてしっかり投げられる。ホント、心強い存在です」

## ブレイクのアップヒルはワーミング的に

「ブレイクを探るとき、おかつぱりではアップヒルが通常だと思えます。深いところから浅いところに向かって引いてくるのですが、どうしても引っかかりやすい。そんなときはハンドルを巻くのではなく、ロッドストロークで引いてくる。ちょっと引っかかったら止めて浮かせてかわす。ロッドの向きも上に構えているとラインの角度も上に向くので、ボトムに刺さりにくい。着水直後はロッドを下げた状態でリールリングしてボトムにつけて、ブレイクのショルダーに当たったところから先述したようにロッドストロークをまじえながら引いてくる。何かにスタックしたらロッドを高い位置で保持してラインを弾いてかわしてやるといい」



スタックしたときは巻くのを止めて浮力を活かせば簡単にかわせることも。それでも外れなければロッドを高い位置で保持してラインを弾いてやる。あくまでも軽い力で行うこと

杭や立ち木の間を引くときも、基本はゆっくり丁寧に引く。速く巻いているとわずかなスタックでもがっかり刺さってしまう。何かに当たった感覚があれば、まずは聞いてみる

## ピックアップ寸前に食ってくることも多い

「クランクを巻いてきて、いよいよ回収というときに食ってくることも多い。もしバスが反応していたら、最後の最後こそ食わせどころでもある。クランクが水面や岸に向かうのは、バスがベイトを追い込んでいる状態に酷似しています。そこをおろそかにして速巻きで回収してしまうのはもったいない。ボクの場合、そこは最後の仕上げだと思っています。だから最後だけわずかにリトリブスピードを弱めて、そこで食ってくると仮定して身構えています。カスミ水系の垂直護岸では、巻きはじめと最後のピックアップで食うことが多く、そこでの経験からそうしているのです」



極端にいえば、どこで食ってくるかわからない。光太郎の経験上、特に巻きはじめとピックアップ直前のバイトは多いという。キャストからピックアップまで、集中力を切らさない!!

タイニーブリッツMRを中間的存在と位置づけ

「タイニーブリッツシリーズにはオリジナル(SR)、MRそしてDRと3タイプあります。中でもMRを中間に位置づけし、それぞれを水深で使い分けています。オリジナルのSRはボトムに当てるというよりは中層がメイン。1mより浅いところで多用しています。DRは文字通り、深いところで。ロングリップがフックを隠してくれるので根掛かりをかわしやすく、ボトムノックに向いています。それらの中間に位置するのがMR。シャッドっぽいアクションで小魚食いのバスに違和感を与えず、中層とボトムの両方いけます。各サイズを揃えておけば、あらゆるシーンに対応してくれますね」

1mより浅いところで使う、タイニーブリッツ。中層とボトムの両方で使うのがタイニーブリッツMR。垂直護岸など、水深があるところではタイニーブリッツDRをメインに使用



「タックルの本数が限られるおかつぱりでは、ルアーに応じてあれもこれもというようにロッドをたくさん持ち歩けません。ボクの場合、汎用性の高いMクラスのロッド一本ということが多いのですが、この手のタックルでもタイニーブリッツシリーズは投げられます。ただしベストはMLかLクラスの低弾性カーボン、もしくはグラスですね。シャッドに近い動きでその振動が明確に手元に伝わる。もしリトリブ中に草などがフックに絡んだとき、その違和感がわかるものだと、そこでロッドを弾くなどして本来の泳ぎを取り戻せます。それができれば、ワンキャストを無駄にしない。ちなみにボクはスティーズ・ブリッツ(STZ 651MLRB-LM)を使っています。カバーがなければスピニングタックルでもOKですが、それよりもためのラインを使えることで安心感が上がりますし、ベイトタックルがおすすめです」



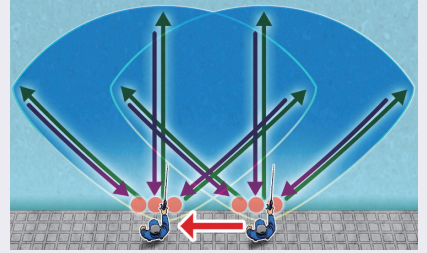
「長く続く護岸エリアなどでは、巻きながら足を進めると確かに効率はいいですが、もしバスが追ってきていたとき、自分の存在を気づかせてしまうことになる。だからボクは、巻くときは必ず足を止めています。また前に進むことで一定のアクションで引いてこれなかったり、フッキングパワーが弱くなることも考えられます。バスを驚かせることなく、フッキングもしっかり決められる。そのために、足を止めて巻くようにしています。こういう細かなことの積み重ねが、終わってみると人と差がつく釣果になっているのです」



細かなことといえば、トゥルーチューンは必ずすること。光太郎はリップの端とアイをプレイヤーで挟んで、ほんのわずかに傾ける。「見た目ではわからないぐらいのチカラで十分!!」

## バイトゾーンの拡大のため立ち位置をずらす

「同じ立ち位置で扇状に探っていると、広範囲を探れるものの、ルアーが帰ってくる場所は同じ。これだと、足下のバイトゾーンを拡大することはできません。わずかに横に移動するだけで着水点が変わり、ルアーが帰ってくる場所も変わります。クランクはサーチベイトとして広く探るルアーですが、実はバスの目の前に持っていけないと食わないことも意外と多いのです。そんな確率を高めるために、自分の立ち位置を変えることを意識しましょう」



一回でも多くバスの目の前にルアーを通せるよう、自分の立ち位置をわずかも変えてやる。巻き物はサーチベイトであるが、バスの目の前にいかないと食わないことも実は多い

イラスト=マッシモロッソ

おかつぱりではMクラスのロッドで対応

テンポよく、しかし巻くときは足を止める

今月の**鵜**2号 林 晃大 (◎野尻湖)

item ドライブクロー2インチ(エビミソブラック)

サーチと食わせに長けるマルチなアイテム

6月の野尻湖といえばバスがスポーニングを終えて、アフターからアフター回復の状態となっています。シーズンを通してみると、1年の中で最も釣りやすい、いい時期であると言えますね。そんな野尻湖で外せない釣りがドライブクロー2インチによる3.5gライトキャロです。水深3mから8mまでを効率よく探ることができ、かつ食わせにも長けているこのリグは、何かと出番が多く信頼度も非常に高い存在です。ここでの使い方はズル引き&ステイ。



今月の**鵜**1号 高原 清 (◎芦ノ湖)

item O.S.Pジグ04シンクロ(KTダークスモークシリーズ)

どんな状況にも対応する頼もしい存在

6月の山上湖に欠かせないルアーといえばやはり! O.S.Pジグ04シンクロでしょう。プリ、ミッド、アフターが入りまじる6月のどんな状況にも対応できる頼もしい存在です。カラーは砂地やゴロタのシャローエリアではKTダークスモーク/コッパーフレック! ウィードやコケつきのマンメイド、ディープのウィードエリアではKTダークスモーク/コッパー&グリーン。ディープのベイトフィッシュをモチーフにKTダークスモーク/ブルーフレック、これがキホン。KTダーク



これをキホンとして、引くスピードや止める時間はそのタイミングでのフィールドコンディションやバスの状況に応じて変わってきますが、「ボトムから離さない」というのが非常に重要になってきます。個人的な見解として、アフターのバスはパーツが多くついた水を掻くルアーに惹かれるようで、ドライブクロー2インチはこの釣りにベストマッチ。今では欠かせないアイテムとなっています。そしてここ数年、野尻湖における定番カラーとなったエビミソブラックは、外せないカラーです。非常におすすめでですのでぜひ試してみてください。

ドライブクロー2インチ(エビミソブラック)

このコーナーでは、O.S.Pが誇るプロスタッフ陣が自身のホームレイクのシーズンパターンをもとにこの時期に欠かせないアイテムとその使い方を解説。ぜひ参考にしてほしい。

6月の山上湖で欠かせないアイテムを二人のマスターが公開!

シンクロ(笑)させた色のトレーラーで、一体感を出すように心掛けています。シャロー〜ミドルにかけてはスローに漂わせられる抵抗の掛かるもの、逆にミドル〜ディープにはストレート系をチョイス。アクションはエビパターン以外はあまり大きなシェイクはせず、ヘッドを一定に保ちつつラインを揺らすイメージ。するとラバーのみプルプル震えちゃいます。お試しあれえ(^\_^)

クスモークシリーズは太陽光の明暗でガリとカラーに変化が出てリアクションバイトを誘います! 芦ノ湖や河口湖のようにソフトベイト禁止の湖ではトレーラーにボークを使用しますが、その他の湖ではジグに

とにかく家族の理解を得ることが大事です。



釣りを夫婦共通の趣味にすることが、理解も得られて、最強の対策だと思いますが、なかなか難しいことだと思います。果たして、参考にしたいのでしょうか。それではみなさんも、家族の理解を得て、楽しいフィッシングライフを!!

一応、私は社会人で会社員なので、その家族カレンダーに仕事の休日と釣りの予定、家族の予定を書き、残った休日が基本的にまた釣りになります。私の後輩の中には、奥さんに竿を折られたり、釣りのタックルを全部捨てられた人がいるとかいえないか? 何はともあれ、家族を大切に、理解を得ることではじめて楽しい釣りに行くことができますね。

釣りを夫婦共通の趣味にすることが、理解も得られて、最強の対策だと思いますが、なかなか難しいことだと思います。果たして、参考にしたいのでしょうか。それではみなさんも、家族の理解を得て、楽しいフィッシングライフを!!

みなさん、こんにちは。OSPフィールドスタッフの中林正臣です。今回OSP JOURNALの人気コラム「釣りに行くための○○」を書かせていただきましたことになりましたが……(汗)。正直言っています、私は釣りに行くために何かをしているという事はありません。それは、妻がとて私の「釣り」という趣味に理解があり、私自身のことをよくわかってくれているからだと思います。ただ釣りに行く前の日は、洗い物やお風呂掃除を自ら進んで(?)やっています。あ……そういうえばひとつだけ、夫婦共通の家族カレンダー(予定表)というのがあります。それぞれの予定を共通カレンダーに書くだけなのですが、これがけっこう便利です。ひと目で月ごとの家族の予定がわかります。

OSPフィールドスタッフ 中林正臣の場合

あなたなら、どうする? どうしてる? 自由に行くこと、かえりませんよね? それは釣り業界人として同じ。だから釣りに行く前には必ず、こんなことをしているのです…… 全国のお父さん、お母さん。釣りに行きたくても、自由に行くこと、かえりませんよね? それは釣り業界人として同じ。だから釣りに行く前には必ず、こんなことをしているのです……

PRESENT!

event@o-s-p.net

応募方法\_希望者はメールにて、件名「O.S.P JOURNAL プレゼント係」とし、以下の項目にお答えください。

タイニーブリッツを4名に!!

- ①\_このパンフレットをどちらのお店で手にしましたか
- ②\_このパンフレットの率直な感想
- ③\_このパンフレットに求める情報
- ④\_釣り歴とホームグラウンド
- ⑤\_O.S.Pで好きなルアー

以上5点の回答に加え、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、ご応募ください。締切は2017年6月26日(月)。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

個人情報について\_ご提供いただきました個人情報厳重に管理し、賞品の抽選、発送および当選者への連絡に使用します。また、提供者の同意なしに業務委託先以外の第三者に開示・提供することはありません(法令等により開示を求められた場合を除く)

オリキンの

記憶から抹消したいアカガエル



忘れ去りたい記憶なのですが… ルアマガモバイルの人気企画「艇王」での秘策ルアーがこれです。舞台となった豊英ダムで春のメインベイトとなるアカガエル。そこで真っ先に浮かんだのがオリキネ虫でしたが、難題だったのが足。浮いて、強度があって… そこでやっと辿り着いたのがアクショントレーラーのヒゲ。カッターで切って、絶妙な熱加減で曲げて、オリキネ虫の後方に装着。そしてマジックでアカガエル模様に塗ったら、なかなかの出来映え。そこまでして、釣れたのかって? それは聞かない約束です…



# KEEP IT ON THE DOWN LOW

これは、ここだけの秘密  
並木敏成が語るあのルアーの真実と  
ということ

Theme  
フロッグ&ソフトベイトにまた新機構を搭載  
このパンフレットを手にした、あなただけが知ることができるあのルアーの真実と、本当の使い方。

## ソフトベイトにおいても他に類を見ない革新的な構造を装備

今回はフロッグおよびソフトベイト編。  
O.S.Pでは自発的にアクションすることをコンセプトにしたドライブシリーズというソフトベイトがあまりにも有名。加えて、ハイピッチ&ハイパフォーマンスを売りにするHPシリーズも少しずつ、勢力を拡大している。並木が考案・監修してきたソフトベイトにもまたこれまでになかった発想や構造が盛り込まれているのだ。



### Frog 編

#### ダイビングフロッグ (2008年7月)

フロッグでありながら、ダイブしてただ巻きではクランクベイトのように泳ぐ。かつ、ポッパーやダーターのような使い方にも対応。ブレードやトレーラーフックを装着できるよう、高強度縦アイも装備している。



#### スケーティングフロッグ (2010年6月)

カエルや虫を模したフロッグが多い中で、ベイトフィッシュフォルムおよびアクションを採用。究極のスリ抜け&フッキング性能やドッグワーク、さらにスキージングアクションも取り入れた。



#### スピントールフロッグ (2012年8月)

バズベイトやグラブリングバズのように、ただ巻きで引き波を立てながら、浮きゴミやアオミドロなどの上もトラブルレスで、バジングで使用できる。またただ巻きだけでなく、ドッグワークアクションも得意とする。



### Soft Bait 編

#### ドライブクローラー (2011年7月)

ストレートワームのワッキーやネコリグセッティングにおいて、フォール時、もしくはロッドワークによるスイミングにおいて自発的なアクションを見せるのは当然のこと。しかしフックをセットする位置によっては、理想とはかけ離れた動きになってしまう。そうならないためにポッチ(マーカー)をつけて、誰もが同じアクションを生み出せるようにした。リグ別スイートスポットを明確にすることで、誰もが本来のポテンシャルを体感できるようになっている。



#### ドライブシュリンプ (2012年10月)

ついてるパーツが動くことでバスを誘うという、クローワームなどに多かった発想とは異なり、逆手の動きを動力源としてその先にあるヒゲや手(ハサミ)などのパーツを動かすという、新発想の設計をエビ系ワームに取り入れた。

#### オリカネ虫 (2013年6月)

浮き姿勢にこだわって、ボディに1mmほどのヒダを設けた。これにより表面張力がアップ。また縦に並べた2本のガードはボディの中心線上に配置。この効果で、たとえばガードを1本カットして、残り1本のガード力で使用したい場合でも、その1本は中心線上に配置できるようにしている。また状況に応じて、左右に開いて使うことも可能。バスが好む虫シルエットは、その名の通りオリキンが考案。



#### ドライブシャッド (2014年9月)

ただ巻きで誘うことしかできなかったシャッドテール系に、リトリブを止めても自発的に泳ぐアクションを融合。その多くは低重心構造

### Soft Bait 編

#### ドライブスティック (2010年4月)

泳ぎや着底姿勢を安定させるための低重心構造はあったものの、フォール時の自発的なアクションを出すために、ワームの上下で塩の比重を変え、低重心化させることで、ポーズ中に自発的なアクションを発生させるという考えは、それまではなかったのだが… その動きを際立たせるため、断面を縦長に設計し、かつテール先端を太くすることで、これまでにない自発的なフォールアクションを実現した。



によるもの。これにより獲れるバスが飛躍的に増えたのは、間違いのない事実。



津久井湖や相模湖において50cmアップをキャッチするなど、発売以来、各地でビッグバスの実績を叩き出している。追ってきたバスに対して確実にバイトさせるドライブフォールは並木の考案によるもの

HPシャッドテールもまた、市場デビューを果たして以来、並木にとって欠かすことのできない必須アイテムとなっている。Basser Allstar Classicや釣りビジョンのロケなど、さまざまな場面で活躍している



#### HPシャッドテール (2014年10月)

何かと出番の多いシャッドテールワームを、幅広いリグで使えるよう究極のマルチ性を持たせた。ノーシンカーからヘビダンまで多岐に渡り、さまざまなリトリブスピードで使用が可能。オフセットフックを使ったノーシンカー仕様で上下逆にセットすれば、微振動を伴った水平フォールも可能。

#### HPミノー3.1インチ (2017年6月)

トウイチのみでしか使用できないこれまでのフルークタイプから、i字引き、あとは極めてサスペンドに近いセッティング、ダートアクション、さらには速巻きのテールアクションは、これまでに類を見ない秀逸さを見せる。加えてノーシンカーだけでなく、スプリットショットリグ、キャロライナリグ、ダウンショットリグ、ジグヘッドリグ、水面ビクビクでの使用、そしてスモラバのトレーラーなど、多彩なリグにおいて完璧なるベイトフィッシュのアクションを再現。このキモとなるのが泳ぎを安定させる上下左右対称のボディデザインに加え、サイドコンケーブと貫通スリットを設けたこと。特に貫通スリットはi字引きセッティングの際に重要となる「フックをまっすぐ刺すこと」を容易にする。またこの貫通スリットの効果で、ダート時にテールがしなやかに曲がることで、手前に寄ってきにくい広角なダートアクションを見せる。そしてVテールは



### Soft Bait 編

速巻きで使用したときに、バイブレーションを発生するという特徴も持っている。クリアウォーターだけでなく、マッディでも結果が出ているのでお試しください。



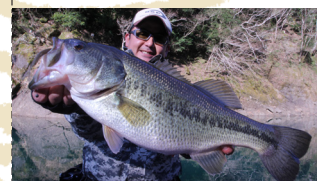
サイドコンケーブ(ボディ側面のくぼみ) HPミノー3.1インチはクリアレイクだけで効くものではない。北浦での実釣りロケでは新たにO.S.Pプロスタッフに加わった安達真秀が、ジグヘッドのスィミングで2匹のグッドサイズをキャッチ(写真下)。この模様も間もなくO.S.P動画にて公開予定。Check it out!!

上下左右対称のミラーボディ構造



独自のV字テール

貫通型ロングスリット



3月下旬に行ったO.S.Pプロスタッフ・山岡計文の合川ダムでのロケでは50cmアップ2匹を含む爆発的な釣果を記録。このたぐいまれなる食わせの能力については、クリアレイクの申し子である山岡も絶賛! 詳しくは近日公開予定の動画をチェック!!

#### ドライブビーバー (2017年発売予定)

ドライブシリーズにおいて、テキサスリグで使ったときにフォールさせるだけで自発的に腕(ハサミ)と左右2対の逆手(足)が動くドライブクローは、もはやクロー系ワーム最強の地位を確立したと言ってもいいだろう。このドライブビーバーは、ホッグ系ワームにおいて最強のアクションを持つワームである、ということをお伝えしておこう。名前の由来はビーバータイプのボディ形状から。この「ビーバータイプ」とはアメリカ製のワームに多く、幅広い、ややフラットな形状のものといわれている傾向にある。ボディが細身のものよりも重量があって投げやすく、ヘビーカバーにフリップしたときなどはフックポイントを両サイドからカバーするという形状であるため根掛かりしにくい。またカバーを乗り越える際にも横転しにくく、フックポイントが下を向くことが少ないので根掛かりを回避してくれるというメリットもある。ときにブルーギルのシルエットと捉えられ、ブルーギルが多いフィールドで強いときもある。あくまでもこれはビーバータイプの話だが、そんな特性を持ったボディ形状のホッグ系ワームとだけここでは言うおこう。ここにある写真のとおりまだ全貌をお見せすることはできないが、プロタイプにおけるフィールドテストでは、明らかにルアーパワーを感じさせるバイト数を得られている。ぜひ期待してほしい。



